

POINT

- ① 在宅勤務を組み合わせる
- ② 当事者自身が開発
- ③ 「日報」が出発点



(有) 奥進システム
奥脇学代表取締役

この「SPIS」は、大阪市にある有限会社奥進システムで開発された。同社は、ソフトウェアの開発会社で、中小企業向けの顧客管理の業務管理システムを開発・提供する会社である。設立は2000年、代表の奥脇学さんと社員7人、創業15年の会社であるが、その7人のうち、5人が障害のある人たちである。

「SPIS」誕生の背景

精神障害者の雇用について、雇用すれば障害者の雇用率にカウントされるようになった2006年（平成18）以降、その雇用は年々増え、障害者雇用で現在最も伸びているのは精神障害者だが、雇用はされても、その職場に定着するのがなかなか難しい。

（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構の調査でも、せっかく就職しても半年、1年で辞めてしまう精神障害者が少なくない。1年後に同じ職場に定着している人は約41%。半分以上が1年以内に辞めてしまうというのだ。これがいま、精神障害者の就業にとつての最大の課題になっている。

この職場定着に1つの突破口となるような就労継続支援の健康評価システム「SPIS」が精神障害の当事者が中心となって開発されて、ここ1・2年、全国各地で利用され始めている。この「SPIS」をめぐる最近の動きを追ってみた。

奥脇さんは、ウェブ技術を使った自由度の高い職場なのだから、仕事への意欲は高くても毎日・フルタイムの出勤が難しい人にも、在宅勤務を利用して働いてもらおうと考えた。そして大阪市の職業リハビリテーションセンターからの紹介で、頸椎損傷の人を試みに採用すると、非常に優秀で戦力になってくれた。当初は週1日の出社、4日の在宅勤務とした。

やがて車椅子の人が2人となり、現在は加えて内部障害の人が1人に、2人の精神障害の人という構成である。また、子育て中のシングルマザーも働いている。

奥脇さんは、「特に『障害者雇用』をと考えていたわけではない」とはいうが、「働きやすい職場づくりとワークライフバランスを意識した働き方」を目指した経営をしている。

そして会社設立後まもなく入会した大阪府の中小企業家同友会の障害者部会にも参加し、障害がある人が一緒に働くうえでの配慮やルールを着実に、社内に蓄積してきた。

同社での精神障害者の受入れは2010年、精神障害者の雇用に力を入れていくことで全国でもトップクラスの大阪の就労移行支援事業所、NPO法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク（以下「JNSN」）から実習生を受け入れたことに始まる。「SPIS」を開発したのは、この「JNSN」からの実習生で、雇用という形

で奥進システムに入った、2人目の精神障害のある社員、中田智之さん（41歳）である。

2012年5月当時、代表の奥脇さんは（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構の重度障害者雇用地方相談協力員になり、幕張での研修会に参加した。

その研修会の分科会では、精神障害者の雇用について、経験のある先輩企業の方々から、「精神」の人は波があつて難しい、調子を崩すと突然来なくなつて長期的に休むなどの意見が出され、非常にネガティブな雰囲気だった。精神障害者を受け入れたばかりの奥脇さんは、「長く一緒に働くことはそんなに難しいのか」と愕然としたという。

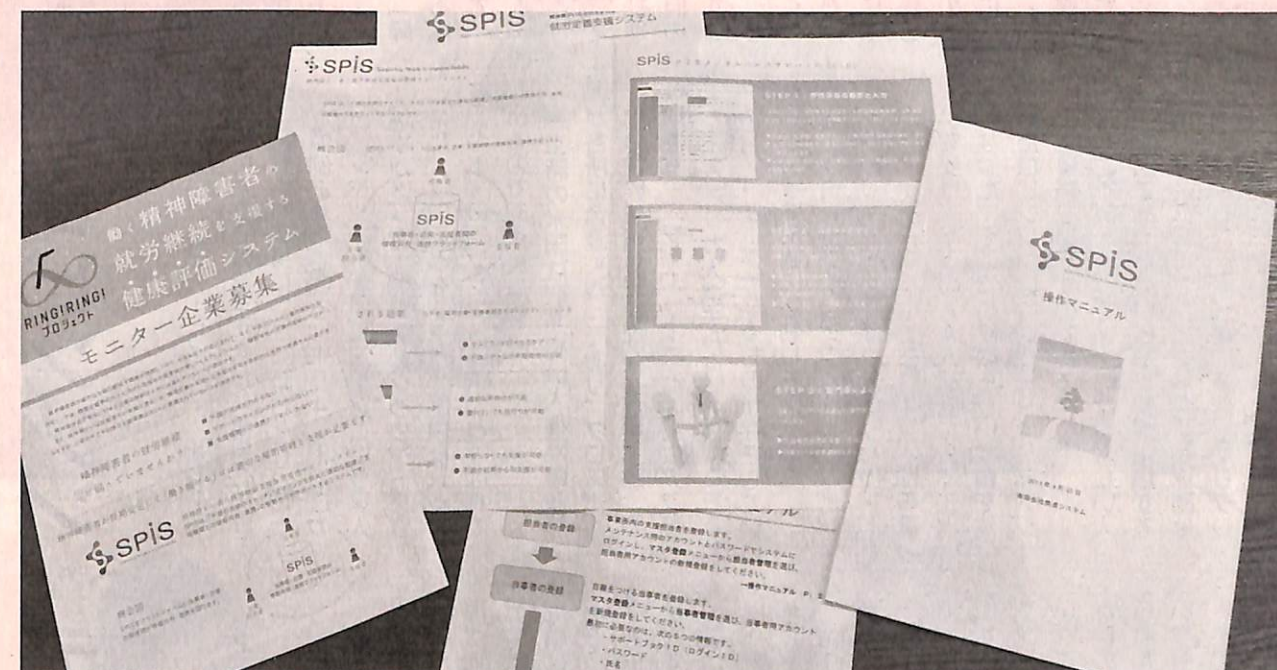
研修後、ショックを受けた奥脇さんは、帰社してすぐに会社の全体会議を開いた。その研修会での様子を社員に伝え、「どうしたら精神障害の人たちも長く働いてもらえるのだろうか」と全体会議は深刻な話し合いになった。

社長があまり落ち込んだ様子で話すので社員たちもみんな、真剣な話し合いにのめり込んでいった。そして、社内では一体どんな工夫ができるかとみんなで話し合っているうちに、社内で毎日付けている「日報」が、自分たちの調子をチェックするのに、かなり役立つという

システムの「開発ストーリー」

編集委員が行く 障害者が自ら生み出した 健康管理・支援システム～SPIS～

株式会社ストローク 代表取締役 金子鮎子



有限会社奥進システム
〒540-0027 大阪府大阪市中央区錦屋町2-2-4
イチクラビル4F
TEL 06-6944-3658 FAX 06-6944-3659

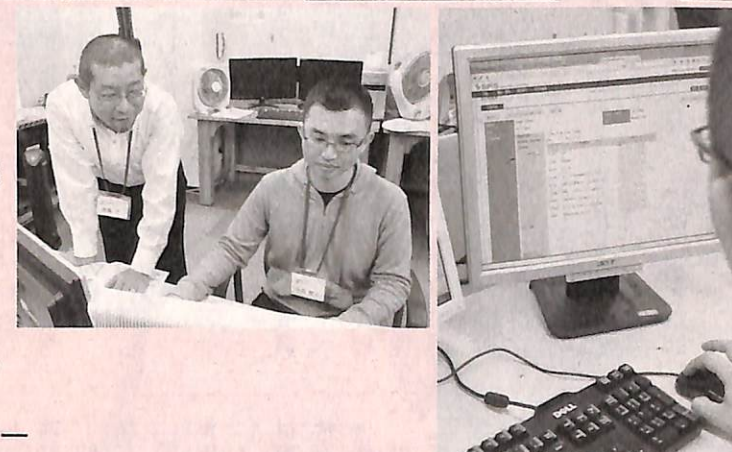
NPO法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク JNSN茨木
〒567-0031 大阪府茨木市春日1-1-5 2F
TEL 072-645-6633 FAX 072-645-6644

一般社団法人ペガサス
〒222-0012 神奈川県横浜市港北区富士塚2-24-5
TEL 045-642-6551 FAX 045-642-6552

有限会社まるみ名刺プリントセンター
〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-5-5 コモビル6F
TEL 03-6844-2254 FAX 03-6844-2322

株式会社博報堂D Yアイ・オー
〒135-8617 東京都江東区豊洲5-6-15
NBF豊洲ガーデンフロント 5F
TEL 03-5144-7150 FAX 03-5144-7159

**大阪府商工労働部雇用推進室就業促進課
障がい者雇用促進グループ**
〒540-0031 大阪府大阪市中央区北浜東3-14
エル・おおさか本館11F
TEL 06-6360-9077 FAX 06-6360-9079



編集委員から

昨年2月の「SPIS」報告会に参加して、就労定着に「道が開ける」と思った。当事者が直接開発していること、自己管理の力をつけるのに役立つことがいい。当事者が自分を知り、自己管理能力をつけながら、働く力を高めることによって、支援のあり方も新しい展開になり、「SPIS」が職場定着の課題を解く1つのカギになるのではないかと期待している。

(写真) 小山博孝

Keyword：精神障害、就労移行支援事業所、システム開発、障害理解



「SPIS」の開発担当者、中田智之さん

実家に戻り、クリニックを受診。統合失調症と診断された。

自分ではまだ病識はなくて、ある程度休んだら働けると思う、リハビリを兼ねてバイトから始めたが、半年ほどでダウン、自宅療養を余儀なくされた。バイトも続けられないのかと非常に落ち込んでしまったという。

5年以上経ったころ、テレビの番組で、統合失調症の人が自分の病気を会社に伝え、障害をオープンにして配慮を受けて働いているのを見て、「自分もオープンにできれば、働けるかもしれない」と思うようになった。

しかし、当事者が1人でできる就職活動には限度があり、あるとき、区役所主催の会合で、保健師さんから就労移行支援事業所のJSSNを紹介してもらった。そして、JSSNで訓練を受け、就労のサポートをもらい、奥進システムでの実習へとつながった。だが、始めは緊張して、パソコンを前にしても体がガチガチ

JSNの保坂幸司事務所長（右）と話す奥脇さん

チになってしまっただった。そして半
年の実習を経て、2012年4からの
正式雇用となった。その1つ目の仕事
が「SPIS」である。

いまは毎日の出勤でなく、在宅勤務を
2日、出勤は1日7時間（8時30分～16
時30分）の週3日として、人混みのなか
で神経を遣う往復2時間の通勤のしんど
さを減らすことで、仕事の効率を上げ
ている。

また、中田さんの場合、精神科の薬は
体にかなり鋭敏に効いてしまうので、主
治医と相談して、普段は頓服のみ使用、
ただし診察は比較的時間をおかず、月2回
の受診としているとのことである。

一方、中田さんなどを奥進システムに送り出したJ S Nは、彼らの就職後もその定着に何くれとなく協力し続けた。

就労移行支援事業所として、2000人以上を就職させ、その8割が定着しているJ S Nの保坂幸司事務局長は、精神障害者が長く働き続けるためには、「喉から手が出るほどこのシステムを試してみたかった」と「S P I S」への思いを語る。

J S Nは、奥進システムと共に「S P I S」を当事者と企業、それに臨床心理士などの専門家が両者へのフォローに入るというネットワークに作り上げ、2013年度、(独)福祉医療機構(W A M)の助成事業として、10社にモニター企業になつてもらった。そして、「S P I S」を利用

去年2月大阪で報告会

中田さん自身も「SPIS」で自分の体調を記録するようになって、自分の落ち込みやすい時期がつかめるようになった。そのため、人からいわれてではなく、ウィークデイは飲みに行かないことにした。当事者である中田さんの奥さんも、彼の「SPIS」にコメントを付けてくれている。

中田さんは、「働く生活を続けるためには、自分1人でストレスをため込まず、空回りしないように、多面的な支えを求めることが、何より大事です」と話している。

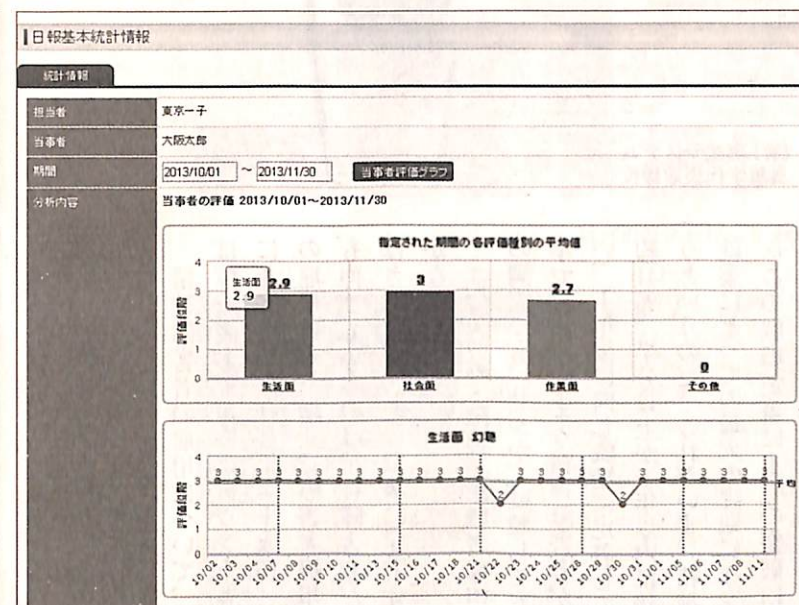


奥進システム社内

奥進システムでは、社員の調子の良し悪しが出やすい項目を、それぞれ4項目程に絞り、それを中心に「日報」を書いて、奥脇さんが会社になくてもその日の調子をネットで見られるようにしている。

例えば、統合失調症の人であれば、「幻聴」や「知覚過敏」、ほかの人は、「胃腸の具合」や「頭痛」など、日々の変化を簡単に記録する仕組みだ。これをグラフにして、わかりやすく視覚化する。

そこから調子が悪くなるポイントが早目にわかるのではないか。「日報」をヒントにわかりやすいシステムを開発しようという議論になった。



名前	技術師 大坂太郎	担当者	東京一子																																																																		
日付	2013/11/09	出欠	☒ 出席 ☐ 欠席 出欠: ~ 退勤:																																																																		
評価	部署の有無 ☐ 前夜 ☐ 朝 ☐ 昼 ☐ 昼寝 就寝時間-起床時間 22:00 ~ 04:30 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ジャンル</th> <th>評価項目</th> <th colspan="4">評価</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>よくない</th> <th>←-----→</th> <th>よい</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活面</td> <td>幻聴</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>生活面</td> <td>知覚過敏</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>生活面</td> <td>しんどさ</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>生活面</td> <td>オソグツの気分転換がうまくできたか</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>社会面</td> <td>思考などが障害されてうまく反応できない</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>社会面</td> <td>同僚とコミュニケーションが取れたか</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>作業面</td> <td>作業は集中して取り組めた</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>作業面</td> <td>決の日に疲れを残さない工夫ができた</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>作業面</td> <td>作業進捗に満足できたか</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>			ジャンル	評価項目	評価						よくない	←-----→	よい		生活面	幻聴					生活面	知覚過敏					生活面	しんどさ					生活面	オソグツの気分転換がうまくできたか					社会面	思考などが障害されてうまく反応できない					社会面	同僚とコミュニケーションが取れたか					作業面	作業は集中して取り組めた					作業面	決の日に疲れを残さない工夫ができた					作業面	作業進捗に満足できたか				
ジャンル	評価項目	評価																																																																			
		よくない	←-----→	よい																																																																	
生活面	幻聴																																																																				
生活面	知覚過敏																																																																				
生活面	しんどさ																																																																				
生活面	オソグツの気分転換がうまくできたか																																																																				
社会面	思考などが障害されてうまく反応できない																																																																				
社会面	同僚とコミュニケーションが取れたか																																																																				
作業面	作業は集中して取り組めた																																																																				
作業面	決の日に疲れを残さない工夫ができた																																																																				
作業面	作業進捗に満足できたか																																																																				
意見・感想	がんばったつもりですが、目標には届きませんでした。																																																																				
担当者コメント	今日はがんばっていたと思います。家でゆっくりしていただき。																																																																				
支援者コメント	がんばれたことが大事です。																																																																				

SPIS のグラフ画面

開発は本人たちで行い、自分たちの状態を記録しやすく、わかりやすいシステムを目指した。開発のポリシーは次の4つの柱とし、構成はシンプルにした。

- ① ネット上どこでも見られる
- ② 一人ひとり、気になる項目を自由に設定できる
- ③ 毎日簡単に、項目ごとに状態を記録できる
- ④ 記録した状態をグラフにして見やすくする

開発を担当したのはJ-SNから入ったばかりの中田智之さんで、「SPIIS」(Supporting People to Improve Stability)の名前も本人が命名した。

システム開発には約2カ月かかったが、中田さんがこだわったのは、この「日報のチェック項目を自由に設定できること。なぜなら、病名は同じでも、出る症状や日常生活で困る点、配慮の必要なポイントとは人さまざまであるからだ。また同じ人でも、時期によりチェックしたい項目は変化することもある。さらに、それぞれがコメントを記入できる。

このシステムの出発点は、企業担当者と一緒に働く人の状態を把握し、継続して働けるための仕組みづくりとして考えられたが、結果として、当事者にとっても大きな効果のあることがわかってきた。

つまり、働く当事者本人が、①自分の日々の状態を記録することから、自分の生活を振り返り、②自己理解が進み、③自己管理する力がつくようになり、④あわせて周囲に、「こうした配慮をお願いします」と発信することにつながるからである。

障害とともに暮らすということは、何より、はつきりした自己理解と緻密な自己管理が必要であるに違いない。

ここで、開発を主に担当した中田さん



SPISの打合せをする(有)まるみ名称プリントセンターの三嶋社長(奥)と臨床心理士の橋倉正さん

この内藤さんは、主治医と体調管理の情報を共有する際、特に自分の「SPIS」の「睡眠」のグラフを先生に見てもらおうというが、「話すより解りやすくして便利ですね」という。

東京・新宿区の(有)まるみ名称プリントセンターでは、社員は8人だが、障害のある人3人が働いている。

社長の三嶋岐子さんは、「社員には気分よく仕事してもらおうのが一番。気持ちよく働ければ、いい仕事が進んでいく。配っているが、それでも目が届かないことがあるので、「SPIS」を利用してもらうことで、「以前なら見落としがちな間違い



横浜のベガサスの木村志義代表(右)と内藤義晴さん



ベガサスで働く内藤さん

つとした兆候にも、気づくことができません。また、夜でも「SPIS」の記録を見ることができて、社長として早目に手を打つなど、安心できるのいいですね」という。

さらに25年の障害者雇用の歴史があり、62人の障害者を雇用する特例子会社、(株)博報堂DYアイ・オーも、7カ月前から「SPIS」を導入、職場の支援者・当事者・臨床心理士の3者の連携、コミュニケーションがかなり進んでいる。

担当の同社業務3部部長の山口純恵さんは、「当事者と職場の支援者という2者関係だけでなく、職場外の心理の専門家にも関わってもらうことにより、ある距離感と多角的な観点を持ちながら、安心して当事者の方々ときちっと関わるゆとりが持てるのがありがたいです」と話している。

また、立教大学での立場とは別に、種々の企業の働く当事者たちと定期的に話し合う機会の多い、臨床心理士でもある宇田さんは、開発から2年目の印象を次のように話している。

「精神障害者の場合、不安が強く遠慮して本音の話をしない人、人間関係の距離感を保つのが不器用、不慣れな人も多いですが、安心できる「SPIS」のコミュニケーションのつながりが、彼らの社会性を育むのに役立つという実感を深めました」



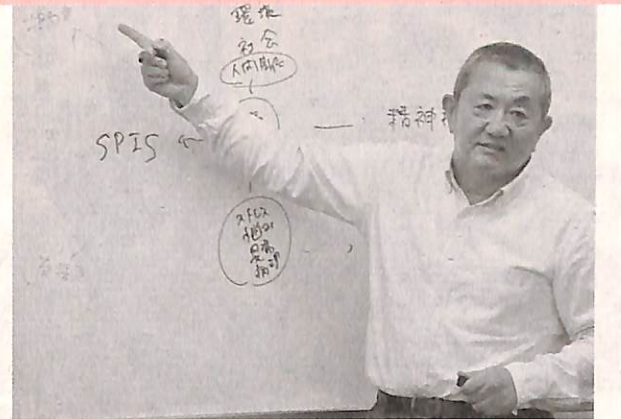
博報堂DYアイ・オーの山口純恵部長(右写真)たちに話を聞く金子委員(左写真・手前)



この「SPIS」のJSNによる2014年度の実例報告会が、2015年1月下旬、東京・渋谷と大阪・天満橋で無料開催されることになっている。精神障害者の継続雇用に関心ある企業などの注目を集めることは間違いない(31頁参照)。



「SPIS」を広く活用してもらうため、JSNを中心に臨床心理士などさまざまな人々が集まり、定期的に研修会を実施している



立教大学心理教育相談所、宇田亮一研究員

したこの事業の報告会が2014年2月、新大阪で、モニター企業や支援にあたった臨床心理士も参加して開かれた。

席上、この事業に関わった立教大学心理教育相談所の研究員、宇田亮一さんは、このシステムの優れている点は、「当事者が起点となり、職場のキーパーソン・臨床心理士の3者の信頼関係が形成されることで、当事者の気持ちがとても安定する」ということだと、いくつかの事例をあげて説明した。

初めはパソコンの入力に抵抗があり、紙ベースで始めたある当事者が、開始後間もなくスマートフォンに切り換えたり、チェック項目を話し合っって絞ったケース



奥脇さん(左)と打合せするJSNの池田浩之さん

などにより、利用者にとって、さらに使いやすい工夫された。また、日々のコメントを通じて支援者が変化に迅速に対応できたことで、当事者は職場に安心感を持つことができた。さらに当事者からは「SPIS」が心のけい口になったという声も寄せられた。

利用の企業、各地に広がる

「SPIS」を活用しようという動きはこれにとどまらなかった。

2014年度、大阪府は「精神・発達障害がい者雇用管理普及事業」で「SPIS」を採用。府内の企業への「SPIS」

の無料導入を通じて、雇用する精神障害者などのセルフコントロールを積極的にサポートする雇用管理手法の効果検証と普及を行っている。

さらにNPO法人全国精神障害者就労支援事業所連合会の事務局となったJSNは、2014年度、公益財団法人JKAから競輪公益資金の補助事業を受け、全国50カ所の事業所に「SPIS」を無料で導入し、モニター企業を広げることができた。

早いところでは、2014年6月から東京都内の特例子会社(株)博報堂DYアイ・オーをはじめ、北海道・東北・関東・近畿・中国・九州の中小企業や、就労移行支援事業所や就労継続支援事業所などでも「SPIS」を導入し、利用するところが出てきた。

2014年11月現在、大阪府の事業として24社50人、またJKAの助成事業では、全国で21社52人が、「SPIS」を利用している。利用企業からの声を紹介する。

日々のデータは自己理解と支援の宝庫

横浜の精神障害者・発達障害者の就労移行支援事業所である一般社団法人ベガサスで働く内藤義晴さんは、自身も双極性障害を抱えながら働き、就労訓練を受ける当事者が実力をつけるための実習先企業の開拓などを主な仕事としている。